

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞〔発生抑制・搬出抑制部門〕
受賞者	株式会社川嶋建設 円山川下流維持作業
受賞テーマ	河川維持作業における廃棄物の分別、発生抑制

【取組概要】

河川維持作業で発生する刈草や伐採木・流木は、通常廃棄物として処分される。近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所より河川維持作業を長年受注しており、刈草等について、有効利用を提案している。

（１）河川維持作業で発生する刈草廃棄物の発生抑制

豊岡河川国道事務所発注の円山川維持作業では、その刈草を一般の方へ無料配布することにより廃棄物の抑制を平成19年度より行っている（H28：864m³、H29：612m³、H30：840m³）。

配布した刈草は、主に果樹園（梨園）の有機肥料として使用されている。

現在、年間約5,000ロールの刈草を100%配布することにより、廃棄物の発生を抑制している。

処分に当たって、一般の方に安心して有機肥料として使用していただけるよう次の点に留意している。

- ・刈草のロールに他の廃棄物の混入を防ぐよう、分別を徹底している。
- ・一般の方が扱いやすいように、刈草を十分に乾燥させてからロールにしている。
- ・梱包用の紐についても、自然に分解する麻紐を使用している。

（２）河川維持で発生する伐採木、流木廃棄物の抑制

河川維持作業で発生する伐採木、流木（幹部分）を一般の方へ無料配布することによる廃棄物の発生抑制を、豊岡河川国道事務所発注の円山川維持作業では、平成30年度より始めた。

引き取られた木材は、地区行事（新年の篝火）や個人の風呂用薪などに利用されている（H30：10トン）。

配布に当たって、一般の方が使いやすいよう次の点に留意している。

- ・扱いやすいよう手ごろな長さに切り揃えている。
- ・空き施設を利用して屋内で十分に乾燥させている。

【評価ポイント】

- ・刈草・伐採木・流木を施工者の努力により有効利用。
- ・刈草の全量（5,000ロール/年）を果樹園の有機肥料などに配布。
- ・その際、①分別の徹底、②乾燥、③自然分解する麻紐での梱包、などの工夫



刈草をロール状にして保管



刈草をロールする際自然分解できる麻紐を使用

